

高等学校国語科における「想像力」を 伸ばす学習指導の実践的研究

—「ミロのヴィーナス」(清岡卓行)の授業を通して—

田中 宏幸・三樹 亮太¹

(2013年10月3日受理)

The Teaching Strategy to Develop Learners'
"Imagination" at a Japanese Senior High School
— A case study of using the essay "Venus de Miro" by Takayuki Kiyooka —

Hiroyuki Tanaka and Ryota Mitsugi

Abstract: The aim of this research is to develop learners' "imagination" for Japanese language instruction at the senior high school level in order to help them think logically. This study explores a teaching strategy to effectively cultivate learners' logical thinking through imagination by analyzing their performance in a writing activity. The research examines the hypothesis that "the ability to infer the title of a text on the basis of its proper understanding advances learners' logical imagination." In the classroom instruction for this experiment, the target students are required to decide the most appropriate title of the text and to explain the reason for their judgment if they were textbook editors. The investigation concludes that it is necessary for learners to practice expressing themselves with clear grounds for their idea based on a specific viewpoint in order to enhance their logical imagination.

Key words: Imagination, Action-research, Practice expressing, Infer the title of a text
キーワード: 想像力, アクションリサーチ, 表現者の立場の想定, 題名の推断

1. はじめに

高等学校学習指導要領改訂(平成21年3月)の経緯に示されているように、変化の激しいこれからの社会を強く生き抜く子どもを育てるために、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力等の育成」に力を注ぐことが求められるようになった。こうした状況をしっかり捉え、「社会人として生きる力」を養うためには、高等学校国語科としてどのような学習指導を展開し、どのような力を育ててい

ばよいのであろうか。その一つとして重要な役割を果たすのが「思考力」と「想像力」ではないかと思われる。とりわけ「想像力」は、今回の改訂によって高等学校国語科の目標に新たに加えられたものであり、その指導法を開発していくことが強く求められていると言えるだろう。

本稿は、教職高度化プログラムの一環であるアクションリサーチ実習Ⅱ(以下、AR実習Ⅱ)を通して、高等学校での「想像力」を伸ばす授業の在り方について考察したものである。AR実習Ⅱでの授業実践を振り返り、成果と課題を明らかにしたい。

¹ 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

2. リサーチ・クエスチョンの設定

高等学校学習指導要領には、国語科の目標が次のように示されている。

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育成する。

高等学校国語科の目標に新たに「想像力」が明記されるようになったのは、小学校及び中学校の教科目標において「想像力を養う」と示していることとの系統性を重視したからである。では、高等学校段階における「想像力を伸ばす」とはどういうことか。『解説』には次のようにある。

想像力を伸ばすとは、実際には見たり経験したりしていない事柄などを頭の中に思い描く段階から更に進んで、様々な資料を基に、これから起こるであろうことやどのように行動すればよいかということなどを思い描くなど、将来の状況やあるべき姿を予測したり、見通しをもって行動したりすることの能力までを含めて身につけることである。(中略) 高等学校段階における想像力には、物事の微妙なところまで感じ取る心情的な側面のみならず、根拠に基づき先を見通すなど、論理的な側面もあること、そしてそのような想像力を一層発展させる必要がある。^{注1}

ここでは、高等学校で求められる「想像力」について、その論理的側面が強調されている。ここでいう「予測」や「見通し」などは社会を生き抜くことに繋がる記述である。もし、高等学校国語科で「想像力」を伸ばす授業を具体化できれば、現代社会を生き抜く子どもを育てることへ寄与できるのではないか。この思いから、「想像力」をテーマに授業実践を行うためのリサーチ・クエスチョンを次のように設定した。

論理的な「想像力」を伸ばすには、評論教材でどのような学習指導が有効か。

AR実習Ⅱでは、このリサーチ・クエスチョンを具体化するために次のような仮説を設定し、授業実践を行った。

3. 仮説の設定

(1) 評論教材における「想像力」

これまで「想像力」の学習指導といえば文学教材の学習指導（登場人物の心情や場面のイメージ化など）

が主であった。それに対し、これからは「評論教材」と「想像力」の関わりを明確化する必要がある。

そこで本実践では、「思考力」「想像力」という二つの能力と、評論教材を「読むこと」との関係を考え、学習指導に三つの段階を想定することとした。

①思考力を用いて本文を的確に読む段階

評論教材の学習では、まず筆者の論理を的確に読み取っていくことが必要となる。ここで働かせるのは、主として「思考力」（言語を手掛かりとしながら物事を筋道立てて考える能力）^{注2}である。つまり、第一段階としては、「思考力を用いて本文を的確に読む段階」を設定することになる。

②想像力を働かせて豊かに読む段階

「思考力を用いて本文を的確に読む段階」を基本としながら、「想像力」がどう寄与するかという視点で、第二段階に「想像力を働かせて豊かに読む段階」を設定する。この段階では、たとえば本文中で示されていることへの具体例を考えるなど、本文をより身近なものとして捉える取り組みが挙げられる。

③想像力を伸ばす段階

第三段階として、的確に読み取った本文や話し合い活動を通して明確になった情報などを根拠として、場面・状況に応じた意見を創出する段階を「想像力を伸ばす段階」として設定する。本文の的確な読み取りにとどまらず、表現者の立場や読者を想定して、タイトルを吟味したり、論を発展させたりする学習を行えば、「想像力」を伸ばす学習指導が成立するであろう。

(2) 仮説の設定

本実践では、第三段階である「想像力を伸ばす段階」を学習指導として効果的に成立させるには、第一段階「思考力を用いて的確に本文を読む段階」、第二段階「想像力を働かせて豊かに読む段階」を踏まえて指導が行われるべきであると考え、三つの段階の系統性を意識して学習指導を構想した。そして、三つの段階のうち「想像力」が関係する第二段階及び第三段階について、次のような授業仮説を設定した。

・第二段階における「想像力」の伸長

本文中の抽象的な表現について、その具体的事例を想像することによって、理解を深めることができる。

・第三段階における「想像力」の伸長

筆者（あるいは編集者）の立場を想定し、最も適切なタイトルをつけることによって、要旨をまとめる力と根拠に基づいて判断する力を育成することができる。

第二段階の授業仮説は、どの教材においても共通するものであり、改めて論証するまでもないであろう。

第三段階の授業仮説は、教材の特質に応じて設定したものである。

本教材「ミロのヴィーナス」は、教科書によって複数の異なるタイトルが設定されているという特徴がある。これを活かしてA「ミロのヴィーナス」、B「失われた両腕」、C「手の変幻」という三つのタイトルから、教科書編集者の立場で本文にふさわしいタイトルを選択する学習指導が有効であると考えられる。

この学習指導が有効であるとするのは、次の三点の理由による。第一に、本文にふさわしいタイトルとは何かと考えることそのものが、予測する学習活動であるということ。第二に、ふさわしいタイトルを考えるためには、的確に理解した本文や各タイトルの特徴を根拠とするということ。第三に、教科書編集者など表現者の立場を想定することが具体的な状況設定となり、学習者の「想像力」を促進するということである。

以下、本稿では、授業の実際を踏まえ、第三段階の授業仮説にしばって詳しく述べていくことにする。

4. アクションリサーチ実習Ⅱの概要

【AR 実習Ⅱの基礎的情報】

- ・対象 広島大学附属高等学校Ⅱ年1組 39名
- ・期間 2012年10月9日～23日(全4時間)
- ・教材 清岡卓行「ミロのヴィーナス」(『現代文1 改訂版』大修館書店、平成20年度版)

【仮説】

- ・「ミロのヴィーナス」において、論理的な「想像力」を伸ばすには、本文の的確な理解を根拠として、教科書編集者の立場で既存のタイトルから適切なものを選定し直すことが有効である。

【生徒観】

- ・自らが疑問に思ったことを考える授業に主体的に取り組む。書く活動でも、考えたいと思えば真剣に取り組む、他の学習者の記述を自らの記述に生かす姿勢ができています。話し合い活動も目的を明確にすることで十分な話し合いが可能である。
- ・文章の読解において高い能力を有している。本教材「ミロのヴィーナス」では、初読で大意を把握することは十分に可能である。しかし、抽象的な語句や身近でない題材を理解することへの抵抗が見受けられるため、この点についての指導が必要である。

【教材観】

- ・大修館書店の教科書では「ミロのヴィーナス」というタイトルだが、その他の教科書では「手の変幻」

(第一学習社ほか)「失われた両腕」(筑摩書房ほか)となっている。²³

- ・本文は大きく三つの意味段落に分かれる。ミロのヴィーナスの美しさは「手を失ったこと」にあり(第一段落)、「復元案」と比較すると尚更、美しさは強調される(第二段落)。「手というものの、人間存在における象徴的な意味」を考えても、失ったのが両腕であることが、ミロのヴィーナスに「生命の変幻自在な輝き」をもたらしたのである(第三段落)。
- ・「失っていること」に注目した逆説的な見方、「手」の象徴的意味に迫る見方によって、ミロのヴィーナスの美しさの核心「ふしぎなアイロニー」(ミロのヴィーナスは「関係性」を象徴する「手」を失うことで、あらゆる「手」=あらゆる「関係性」を生み出すこと。)を筆者は述べる。これは、筆者独自の見方であり、学習者には新鮮であろう。
- ・抽象的な言い換え表現が多い。抽象的な表現が具体的に何をさすか。逆に、具体的な事例が抽象的にどう言い換えられているか。双方向からの思考を身につけるのに適した教材である。

5. 授業構想(単元計画)と授業の実際

(1) 単元計画

【目標】

- ①抽象的な表現の意味内容を的確にとらえ、それらを踏まえて本文の内容や筆者の考えを理解することができる。
- ②筆者の述べていることを的確に理解したうえで、タイトルを批評し、他者との意見の交流を踏まえることで、自分の考え方を深めることができる。

【授業計画(全4時間)】

時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読する。 ・第一段落の問題提起と筆者の考えを理解する。 ・三つのタイトルから、本文に最もふさわしいタイトルを選択し理由を述べる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段落の構成と筆者の考えを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ①復元案と対比することによって、両腕の喪失は「質の変化」であることを理解する。 ・第三段落の構成と筆者の考えを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「手の人間存在における象徴的な意味」について、言い換え表現を中心に理解する。 ②十分な理解のために「手の人間存在における象徴的な意味」の具体例を考え、自分の体験と結びつける。(具体例を記述)

3	<p>・第三段落の構成と筆者の考えを理解する。</p> <p>①「手の人間存在における象徴的な意味」を前時に考えた具体例をもとに理解する。</p> <p>②「ふしぎなアイロニー」について、具体化によって理解する。</p> <p>・筆者の考える「ミロのヴィーナス」の美しさやその理由とともに、筆者の考え方に対する自分の考えを書く。</p>
4	<p>・三つのタイトルの違いを分析する。</p> <p>①三つのタイトルの違いを各自で分析する。</p> <p>②分析したタイトルの特徴について、各班で話し合いを行い共有する。</p> <p>③分析結果を発表し、全体で共有する。</p> <p>・「教科書編集者」の立場から最も適切だと考えられるタイトルを選ぶ。</p> <p>・その選択理由を、三つのタイトルの違いについての分析をもとにまとめる。</p>

(2) 授業の実際

第1時～第3時では、本文の的確な理解のために「言い換え表現」の確認を中心に読解を行った。

第4時の学習活動が本実践の主眼であるため、本文の読解を第3時までには円滑に行う必要があった。そこで、読解上の疑問点の解決を軸とした授業展開を行うことにした。毎時間書かせた「疑問・感想」から抽出した課題に絞り込むとともに、文章構造を読み解く手引きとなる「ワークシート」を用いることで、学習内容の焦点化を図った。この工夫もあって、テンポの速い授業展開に対しても、多くの生徒が充分に対応することができた。

また、毎時の「疑問・感想」については、評価言を書き加えて、次時の冒頭に返却した。これによって、学習者の学習意欲を持続・向上させることができた。

しかし、第三段落の「手の人間存在における象徴的な意味」という表現は、「言い換え表現」を中心にした読解作業やワークシート等の工夫だけでは、学習者の理解が及ばない難解な箇所である。そこで、第2時に自分の体験と本文を結び付ける学習活動を行った。加えて第3時では、学習者の考えた具体例をもとに全体で交流を行い、さらに実感の伴った理解ができるようにした。学習者は積極的に具体例を考え、それを用いた交流にも積極的に参加した。授業後の感想では、この活動が強く印象に残ったと述べる学習者もいた。この箇所についても充分に理解できたと言える。

第4時では、教科書編集者の立場からタイトルを決定する学習を行った。タイトルの決定にあたっては、本文の内容理解だけではなく、三つのタイトルの意味の違いも分析する必要がある。個人、グループ、全体と学習活動の形態を変化させ、他者の意見を踏まえた

タイトルの意味分析を行う。そうすることで、各学習者がよりよい根拠を出すことにつながる。この活動を踏まえて、タイトルを選択させていった。

また、「教科書編集者の立場で」という条件は、「目的」や「読者」を具体的に絞り込んでいくことに繋がる。この限定された条件下でタイトルを選択させることで、選択理由を明確にしながらかえることが求められるのである。本実践の核となる一連の学習指導である。

この学習活動でも学習者は積極的に話し合いに臨んでいた。各班の発表にも熱心に耳を傾ける様子が見られ、他者の意見を積極的に参考にする姿勢が看取できた。

6. 仮説の検証

(1) 検証の方法

では、仮説に基づいた本実践の学習指導は、本当に「想像力」を伸ばすものとなっていたのだろうか。

それを確かめるため、仮説「『ミロのヴィーナス』において、論理的な「想像力」を伸ばすには、本文の的確な理解を根拠として、教科書編集者の立場で既存のタイトルから適切なものを選定し直すことが有効である」について検証を行う。

まず検証の方法を明確にしたい。

本実践では、仮説に対応する学習活動として、教科書編集者の立場からタイトルを決定し、その理由を書く学習活動を第4時に行った。先の単元計画にあるように、第1時は、直感的に「タイトルの選択」を行ったものである。それが、第2時以降の「本文の内容の理解」、「タイトルの分析」、「読み手を想定する」の三つを経て、第4時には、「タイトル選択の理由」がどのように変化しているのかを明らかにする。

具体的には、学習者の記述を、「本文の内容の理解、または、タイトルの分析を根拠としているか」及び「読み手を想定しているか」という二つの観点から評価し、比較した。この変化を見ることで、仮説の検証を行うことができると考える。

学習者の記述を評価するにあたっては、評価規準を以下の通り作成した。

【①相手意識について】

- a…読み手を想定しているもの
- b…読み手を想定していないもの

【②根拠について】

(根拠1) 本文の理解

筆者の主張「手そのものの象徴性」「ふしぎなアイロニー」を根拠としているかを3段階で判断

した。

3…明示している。

2…曖昧に示している。

1…示していない。

(根拠2) タイトルの分析

タイトル A, B, C について, それぞれの「意味内容」や「効果」の面から分析し, それぞれのタイトルの差を明確にして根拠にしているかを3段階で判断した。

3…明示している。

2…曖昧に示している。

1…示していない。

本稿では, まず全体のデータを見ることで, 第4時の学習活動の「想像力」を伸ばす有効性を検証する。次に, 2名の学習者の記述を見ることで, 具体的に学習者に起きた変化をみる。なお, 検証の対象とした学習者は39名中32名であった。検証の対象としなかった7名については, 第1時または第4時の作成物が未提出などの理由で十分な検討ができないと判断した。

(2) 全体的なデータから見る仮説の検証

生徒の記述状態の全体像をつかむために, 第1時・第4時それぞれの学習者の記述を, 先の評価規準をもとに評価した。たとえば, 「読み手を想定しており, 根拠として本文の内容が明示され, タイトル分析も明示されていた」場合は「a-3-3」とした。なお, この「a-3-3」が最も高い評価であり, 逆に「b-1-1」が最も低い評価となる。なお, 「根拠」については「本文の内容」か「タイトルの分析」のどちらか一方を根拠として明示しているもの(どちらかで3の評価が出ているもの)について, 「おおむね満足できる」とした。

【表1】は, 評価後に結果を集計し, 学習者に起きた変化をまとめたものである。この表の実線枠で示した箇所から, 学習者の8割が読み手を想定するようになったことが分かる。ここには「第1時, 第4時ともに読み手を想定した学習者」(最初から読み手を想定していた学習者)3名が含まれるが, この学習者を除いても23名(71.8%)の学習者が新たに読み手を想定するようになったことがわかる。

破線枠で示した箇所を見ると, 24名(75%)の学習者が明確な根拠を示すようになってきている。この24名はいずれも第1時では根拠を明示できていなかった。本文の読解やタイトルの意味分析を行ったことによって, 選択理由を説明できるようになったと思われる。

【表1】

	根拠明示 (第4時)	根拠不明 (第1時・ 第4時)	読み手想定 合計
読み手想定 (第1時・ 第4時)	3名 (a-3)	0名	26/32名 (81.2%)
読み手想定 (第4時)	16名 (a-3)	7名 (a-2, a-1)	
想定無し (第1時・ 第4時)	5名 (b-3)	1名 (b-1)	6/32名 (18.7%)
根拠明示 合計	24/32名 (75%)	8/32名 (25%)	

このように「本文の内容の理解(第1時～第3時)」, 「タイトルの分析(第4時)」, 「読み手を想定する(第4時)」という三つの学習の設定で, 「想像力」を伸ばす授業が具体的に実現できたと全体のデータから判断することができる。

(3) 各学習者別にみる仮説の検証

次に学習者の実際の記述を挙げ, 具体的に学習者にどのような変化が起きたのかを見たい。なお, 学習者の記述に A, B, C という表記がある。これはそれぞれ, A「ミロのヴィーナス」, B「失われた両腕」, C「手の変幻」の三つのタイトルを指している。

①「タイトル」のイメージと「本文の内容」の差が読者に与えることに注目した例(学習者 a)

【第1時】失われた両腕(評価: b-1-1)

筆者が知りたいのは, ミロのヴィーナスの両腕が失われたことによって, 生まれるものと, それが生まれる理由だと思うので大きなテーマは「失われた両腕」だと思った。

【第4時】ミロのヴィーナス(評価: a-2-3)

題名に「ミロのヴィーナス」と書いてあると「あの腕の折れたやつ…」と絶対みんな思い浮かべると思うので, 特に何とも思っていなかった腕の欠落にひそむアイロニーについて読んで, びっくりしてほしい。BとCは少し難しいし, ネタバレ感がある気がする。

学習者 a は, 第1時の段階で本文の内容をおおよそ理解していた可能性があるが, その「生まれるもの」「生まれる理由」が具体的に何であるかを明示できていない。また, タイトルの分析においても, 「テーマ」が一番大事だと捉え, 他のタイトルとの比較・検討を行っていない。そこで, いずれも「根拠を示していない」という評価を与えた。

第4時では, A「ミロのヴィーナス」というタイトルの読む前に与える印象と, 両腕の欠落による「アイロニー」という本文の内容の差が, 読み

手に与える影響に注目している。タイトルの分析という点では、根拠をもう少し明示してほしいところであるが、自分が想像した場面をもとに、三つのタイトルの本文との関係について、「ネタバレ感」（題名によって本文の内容が予測できてしまうこと）という語を用いて比較検討していることを評価したい。「びっくりしてほしい」という言葉に表れているように、編集者の意図を想像し、「タイトルの与えるイメージ」と「本文の内容」との差に注目した記述へ変化したのである。これは、具体的に読み手を想像した結果だと言える。

②読者に想定される「国語の学習」を想像した例（学習者 β ）

【第1時】失われた両腕（評価：b-1-2）

単純にBが一番内容に興味をそそられるから。どんな話だろう！ってなる。Aだったら、「ミロのヴィーナス」かー。ふーん。」で読んでみたい！って思えるところまではいかないしCでも興味をそそられる面はそんなにかわらないけど、今、内容を知っている立場から考えると、本文とはちょっと違う気がする。Cだと、何かマジックとか、影絵の話とかの方がしっくりくる気がする。なんか感覚的な話でごめんなさい。

【第4時】失われた両腕（評価：a-3-3）

“失われた両腕”というマイナスイメージの言葉が入っていることによって、本文の内容もマイナスイメージのものを想像しがちだが、「しかし」や「だからこそ」といった表現で美しさや、無限の可能性を孕んだプラスのイメージの内容の本文に持っていくことが出来ると思う。（ここら辺で文章構造も学ぶことが出来るのではないかと思う。）Aだと本文の内容をもらい出しすぎていて、おもしろくない。Cも面白いけど、あまりに抽象的すぎるかなーと。BがタイトルでもCへのつながりはあると思います。

第1時でタイトルを比較しているということは、学習者 β の記述において評価できる点である。だが、本人が「感覚的な話」と述べているように、各タイトルの違いが明確に示せているわけではない。また、「本文とはちょっと違う気がする」からは、本文の理解もまだ十分でないことがうかがえる。

第4時では、タイトルの分析をより明確に行うことができている。C「手の変幻」がどう抽象的であるの

かをもう少し詳しく説明してほしいだったが、三つのタイトルのうちB「失われた両腕」にのみ「マイナスイメージ」があるとし、本文の内容との差を意識している点は非常に面白い考察である。学習者 α の記述と同じく「タイトル」の与えるイメージと「本文の内容」の差が読者に与えることに注目した記述である。

また、この学習者のように数名の学習者が「表現」や「文章構造」についてなど普段の具体的な学習との関係を意識した意見を述べていた。国語の授業における自分たちの学習場面を想像したのだろう。

（4）検証の総括

教科書編集者の立場からタイトルを決定し、その理由を書く学習活動では、全体的なデータにおいて「予測」と「根拠」の二つの観点をもつ学習者が第4時で顕著に増加した。

また、学習者の事例では、具体的な読み手を想像し根拠とともにタイトルを推断する学習者の豊かな記述を見ることができた。

総じて、仮説に基づいた本実践の学習指導は「想像力」を伸ばすものであったと評価してよいであろう。

7. 成果と課題

（1）成果

学習者に論理的な「想像」を促すためにはどのような取り組みが必要か。本実践では、その答えとして二つのことを明確にすることができた。

第一に、表現者の側に立ってみることである。表現者（送り手）の側に立てば、自ずから、相手（読み手）や場面を想定することになる。本実践では、教科書編集者というやや特殊な立場に立つことによって、生徒への影響なども想像して、適切なタイトルを判断するようになっていったのである。

第二に、学習者に判断を求める学習活動を仕組むことである。本実践では、「教科書編集者の立場から適切なタイトルを選択する」という課題を与えたが、その際に、「なぜそのタイトルを選んだか」を考えさせることが大切であった。本文中から、根拠となる箇所を探したり、タイトルの表現の効果について分析したりすることが、論理的に「想像」することに繋がるのである。

以上のことをまとめると、論理的な「想像」を促すための条件は、前提条件を含め、次の三項目に整理できる。こうした整理をなしたことが、本研究の成果である。

①論理的な「想像」を促すには、その前提として、教

材に対する理解を深め、教材を根拠として用いられる状態にしておくことが必要である。

- ②論理的な「想像」を促すには、情報の「送り手」(表現者)の側に立たせ、「読み手」を想定して「いかに表現するか」を考えさせることが効果的である。
- ③論理的な「想像」を促すには、学習者に「自分が判断する」という意識を喚起し、その根拠を明らかにさせる必要がある。

(2) 課題

「想像力」を伸ばす学習指導に必要な観点は明らかになってきたが、その一方で、不十分な点も多い。以下に課題を2点述べる。

①想像を喚起する条件の明確化

本実践では、「教科書編集者」という立場を設定し、「タイトル」を選択するという取り組みを行った。場面や相手を設定した意義は認められたが、一方で設定条件としてはまだ不十分であるように思う。なぜなら、学習者の記述には「読者」や「生徒」といった言葉が混在し、各学習者の想像した状況にばらつきが見られたからである。つまり、共通した問題状況として明確な提示ができていなかったのである。一定の方向付けをしながら、学習者の多様性を確保していくことは難しい問題であるが、想像を喚起する条件をうまく設定できれば、それも可能になると考える。そのためにも、条件設定の明確化について、さらに検討する必要がある。

②先行理論を踏まえた多様な学習指導法の開発

本実践における学習者の記述を分析していくと、各学習者なりの様々な工夫を見てとることができた。だが、その成果を他の学習指導にも援用できるようにしていくには、個々の想像の実態を個別的・具体的にとらえるだけでなく、想像の仕組みに関する理論を明らかにしていく必要がある。実践の基盤となる理論研究を進めていくことで、学習者の「想像力」を伸ばしていく方法や観点がさらに豊かに開発されていくことになろう。認知心理学の先行理論も視野に入れて研究を進めていきたい。

とはいえ、「想像力」は脳内の思考の一つであり、実体が捉えにくいものである。そのため、一つ一つの実践において、「確かに「想像力」を伸ばしえた」と評価することは、きわめて困難である。だが、長期的な展望をもって「想像力」を伸ばす授業を構想したとき、この学習指導が多くの可能性に満ちていることに気づく。この「想像力」を伸ばす学習指導を通して、学習者は必死に何かヒントにならないかを考え、根拠となることを探す。また、他者との交流を通して、自

身の想像の不十分さに気づき、自分の判断を振り返る。その経験の蓄積は、学習者の「想像力」を伸ばし、「状況に応じて予測する」力を育てるに違いない。

今後はさらに先行理論に学びつつ、毎回の学習指導の質を高めることによって、多様な学習指導法を開発していきたい。(三樹)

8. まとめ

「想像力」は、一般的には「イメージする力」すなわち「未経験の事柄などを思い描き、微妙なところまで感じ取る力」として理解されている。だが、先の『解説』にも示されていたように、このような情動的側面だけでなく、「根拠に基づき、予測し、先を見通す力」という論理的側面もあることに目を向け、広い概念で捉えるようにしたい。高等学校の段階では、推論したり、反論を予想したり、仮説を設定したりしながら、複数のアイデアを組み合わせる新しいものを生み出す力を育てていくことが求められているのである。

では、国語科の学習指導では、「想像力」は、それぞれの文種とどのように関わっていると考えればよいのだろうか。文種を「文学的文章」「論理的文章」「実用的文章」の三種に分けるならば、【表2】のように整理できるであろう。

さて、本実践は、このうち「評論」において「想像力を伸ばす」指導はいかにあるべきかという問題意識で取り組んだものである。授業仮説としては、「教科書編集者の立場で、最も適切なタイトルをつけてみよう」と課題設定を行った点に特色がある。

タイトルをつけるには、本文の的確な理解が欠かせない。その上で、どのタイトルが最も効果的であるかを考えていくのである。となると、各タイトル案の表現特性を分析し、想定される読者への影響を想像していかなければならない。この学習は、教科書本文の読み深めを促すとともに、やがて生徒自身の表現活動の向上にも繋がっていくものとなるのである。

【表2】

		イメージする力	根拠に基づき予測する力
文学的文章	小説	・場面の理解 ・心情の理解	・自己と重ね合わせ、自分の考えをもつ ・筆者(語り手)の意図を読む
	随筆		
論理的文章	評論	・抽象的な語句の具象化する ・事例の想起	・主張と根拠を読み取り、吟味する ・筆者の主張を敷衍し、活用する
	手紙		
実用的文章	手紙	・手紙の「器」として働く(内容は多彩。文学も論理も説明・記録も)	
	記録	・目的や相手を想定した伝達(内容の分析・整理・構造化)	

【注】

- * 1 『高等学校学習指導要領解説 国語編』(p.10)
- * 2 注1に同じ (p.10)
- * 3 『読んでおきたい名著案内・教科書掲載作品 13000』(pp.216-217)

【主要参考文献】

- ・阿武泉監修『読んでおきたい名著案内・教科書掲載作品13000』紀伊国屋書店, 平成20年
- ・岩間輝生『高校生のための現代思想ベーシック・ちくま評論入門』筑摩書房, 平成21年
- ・内田伸子『想像力ー創造の泉を探る』講談社現代新書, 平成6年
- ・大西道雄『国語科授業論叙説』溪水社, 平成6年
- ・岡本恵子ほか「新学習指導要領の下での授業実践 1ー「想像力」を育てる漢詩・漢文の学習ー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第40号, 平成24年, pp.153-158
- ・岡山県立総社南高等学校編『「想像力を伸ばす」ための効果的な指導ー新学習指導要領の実施に向けてー』岡山県立総社南高等学校, 平成24年
- ・北川透「「ミロのヴィーナス」をどう教えるか」

- 『日本文学研究』第42号, 梅光学院大学日本文学会, 平成19年, pp.47-56
- ・清岡卓行『ひとつの愛』講談社, 昭和45年
- ・清岡卓行『手の変幻』講談社, 平成2年
- ・近藤聡「『社会認識と自己認識を深める』メディアリテラシーの授業」『月刊国語教育研究』437号, 日本国語教育学会, 平成20年9月, pp.22-27
- ・佐伯胖『イメージ化による知識と学習』東洋館出版社, 昭和53年
- ・田中宏幸『発見を導く表現指導』右文書院, 平成10年
- ・「文化審議会国語分科会第9回議事要旨」〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/gijiroku/011/030101.htm〉(最終閲覧日:平成25年9月1日)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説国語編』教育出版, 平成22年6月

【謝 辞】

アクションリサーチ実習Ⅱのメンターである広島大学附属高等学校新治功先生と広島大学附属高等学校Ⅱ年1組の皆さんに改めて深く御礼申し上げます。